

成年者ノ後見ト禁治産者ノ後見トヲ兼ヌル者アルモ此二人ノ無能力者ノ利益相反スルヲ以テ其後見人ハ此無能力者ノ一人ヲ代表シ又他ノ一人ノ爲メニハ臨時保佐人ヲ指定シテ分割ヲ爲サ、ルヘカラサルカ如シ而シテ法文ニハ利益ノ相反スル無能力者又ハ不在者ノ數人アルトキハ云々トアレトモ此數人ノ間ニ分割ヲ爲ストキハ其利害ハ常に相反スルモノナルヘシ又法文ニハ其各自ノ爲メ臨時保佐人又ハ管理人ヲ指定ス可シトアレトモ今述ヘタルカ如ク例ヘハ一人ニテ二人ノ無能力者ノ後見ヲ兼ヌル者アルトキハ此後見人カ其一人ヲ代表スヘキニ因リ他ノ一人ノ爲メ臨時保佐人ヲ指定スルヲ以テ足ルヘキナリ要スルニ一人ニテ利益ノ相反スル數人ヲ代表スルコトヲ得サルナリ

○爰ニ一言スヘキハ本法及ヒ民事訴訟法其他ノ特別法ニ於テ裁判上ノ組立、分割ノ檢認及ヒ分割ノ方法等ノ規定アルヲ見ス而シテ此等ノ手續ニ關スル規定ハ實際上甚々切要ナルモノニシテ若シ其規定ノ宜シキヲ得ス又ハ完備セサルニ於テハ實際上弊害ノ續出スヘキヤ蓋シトスルコトヲ得ヘキナリ

第四百十五條 分割ノ結了シタルトキハ各所有者ハ其領收シタル物ノ證書ヲ保有ス

所有者ノ總體又ハ數人ニ分割シタル一箇ノ物ノ證書ハ其最大ノ部分ヲ領收シタル者之ヲ保有ス最大ノ部分ヲ領收シタル者ナキトキハ各所有者ノ協議ヲ以テ其保有者ヲ定ム若シ協議ハサルトキハ裁判所之ヲ指定ス



何レノ場合ニ於テモ證書ノ保有者ハ他ノ所有者ノ  
求メニ應シテ之ヲ使用セシム可シ

〔義解〕(一四八) 本條ハ分割シタル物ノ證書ノ保有ニ關スル規定ヲ揭  
ケリ

各分割者ハ分割ニ因テ領收シタル物ノ證書ヲ保有スルナリ是レ其分  
割物ニ證書アルモハ其證書ハ其物ニ附屬シタルモノナレハナリ  
共有者ノ總體又ハ數人ニ分割シタル一箇ノ物ノ證書ハ其最大ノ部分  
ヲ領收シタル者例ヘハ共有者三人アリテ其間ニ五町歩ノ水田ヲ分割  
シ其一人ハ二町ヲ領收シ他ノ二人ハ各一町五段ヲ領收シタル場合ニ  
於テハ二町ヲ領收シタル者其證書ヲ保有スヘシ若シ最大ノ部分ヲ領  
收シタル者アラスシテ其數人ノ所有者ハ各均一ナル部分ヲ領收シタ  
ルトキハ各所有者ノ協議ヲ以テ證書ノ保有者ヲ定メ其協議調ハサル

トキハ裁判所之ヲ指定スヘキナリ而シテ其孰レノ場合タルヲ問ハス  
證書ノ保有者ハ他ノ所有者ノ求メニ應シテ之ヲ使用セシムルノ義務  
アルナリ(財産編第四百八十七條)

### 第四百十六條 所有者ハ各自ニ受クル部分ノ割合ヲ 以テ債務ヲ分擔ス

〔義解〕(一四九) 本條ハ分割財産ノ所有者ハ自ラ領收シタル財産ノ部  
分ノ割合ヲ以テ債務ヲ分擔スヘキ旨ヲ定ム

包括財産ヲ取得スル者ハ其財産ニ相應スル債務ヲ分擔スルモノナル  
コトハ前ニ既ニ之ヲ示セリ然レハ分割ニ因テ包括財産ノ一分ヲ領收ス  
ル者ノ其領收シタル部分ノ割合ニ應シテ債務ヲ負擔スルニ付テハ別  
ニ説明ヲ要セサルナリ而シテ其共同分割者ハ連帶ニテ債務ヲ負擔ス  
ル者ニ非サレハ債權者ハ各分割者ノ領收シタル財産ノ割合ニ應シテ



ノミ之ニ對シテ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ヘキナリ然レモ物上擔保例ヘハ抵當ヲ負擔スル財産ヲ領收シタル分割者ノ如キハ其抵當ノ擔保スル債務ノ全額ヲ辨濟スルカ又ハ其財産ヲ拋棄セサルヲ得サルノ結果ヲ受クルコトアルヘキナリ

第二款 分割ノ効力及ヒ擔保

第四百十七條 分割ノ効力ニ付テハ第一百五十五條ノ

規定ヲ適用ス

〔義解〕(一五〇) 本條ハ包括ノ贈與又ハ遺贈ニ基ク不分財産ノ分割ノ効力ハ第一百五十五條ニ規定シタルモノト同一ナル旨ヲ示セリ  
前述不分財産ノ分割前ニ在テハ其各共有者ハ此財産ノ各箇各原素ニ付キ所有權ヲ有スルモノナリ然レハ分割ニ因テ各分割者ハ不分財産ノ一分ヲ他ノ分割者ノ爲メニ拋棄シ而シテ自ラ他ノ一分ノ專全ノ所

有者ト爲ルモノナリ例ヘハ爰ニ甲乙二人ノ包括受遺者アリテ各自遺贈ニ因テ遺言者ノ財産ノ半額ヲ受ケタリ而シテ其財産ノ半額ハ山林ニシテ他ノ半額ハ水田ナリ又其山林ノ價額ト水田ノ價格トハ同一ナリト假定セシ然ルニ分割ニ因テ甲者ハ山林ヲ領受シ乙者ハ水田ヲ領受シタルキハ甲者ハ水田ニ於ケル自己ノ所有權ヲ拋棄シテ之ヲ乙者ニ移轉セシメ而シテ自ラ山林ノ專全ナル所有權ヲ取得シ又乙者ハ山林ニ於ケル自己ノ所有權ヲ拋棄シテ之ヲ甲者ニ移轉セシメ而シテ自ラ水田ノ專全ナル所有者ト爲リタルモノナリ然レハ甲乙兩者ノ各自ハ互ニ不分財産ノ一分ヲ讓渡シ他ノ一分ヲ讓受ケタルモノニシテ即チ分割ハ一種ノ交換タルニ外ナラス故ニ山林ノ專全ナル所有權ヲ取得シタル甲者ハ其一分ニ付テハ遺言者ノ承繼人ニシテ他ノ一分ニ付テハ乙者即チ其共同受遺者ノ承繼人ナリ又水田ノ專全ナル所有權ヲ



取得シタル乙者ハ其一分ニ付テハ遺言者ノ承繼人ニシテ他ノ一分ニ付テハ甲者即チ其共同受遺者ノ承繼人ナリト謂フヘシ以上ニ述ヘタルカ如ク分割ハ其實交換タルニ外ナラス然ルニ立法者ハ既ニ第百五十五條ニ於テ規定シタルカ如ク此不分財產ノ所有權ハ分割ニ因テ分割者間相互ニ移轉スルモノニ非スシテ其移轉ハ各分割者間ニ初メ不分財產ヲ生シタル當時即チ包括ノ贈與ノ時又ハ遺言者ノ死亡ノ時第百五十五條ノ場合ニ於テハ會社解散ノ時ニ在ルモノト看做セリ再言スレハ立法者ハ事實ニ反シタル一ノ假設ニ因リ現ニ共同分割者間ニ所有權ノ移轉シタル時ニ於テ其移轉アリタルモノトセズ此分割者間ニ初メ不分財產ノ生シタル時ニ於テ既ニ相互ニ所有權ノ移轉シタルモノトセルナリ更ニ簡言スレハ分割ハ所有權移轉ノ効力ヲ生セスシテ各分割者ノ所有權申告ノ効力ヲ生スルモノナリ

立法者カ事實ニ反シタル此假設ニ因リ分割ハ所有權申告ノ効力ヲ生スルモノト爲シタル所以ハ分割者ノ權利ヲ保護シ且分割者間ノ平和ヲ保ツカ爲メナルニ因ル蓋シ若シ分割ニシテ所有權移轉ノ効力ヲ生スルモノトスルトキハ贈與ノ時又ハ遺言者ノ死亡ノ時ト分割ノ時トノ間ニ於テ共有者例ヘハ包括受遺者ノ一人甲者カ遺贈物ノ一分ヲ第三者ニ讓渡シ又ハ之ヲ以テ抵當ヲ設定シタルニ其遺贈財產ノ一分ハ分割ニ因テ他ノ共同受遺者タリシ共同分割者乙者ノ部分ニ入りタルトキハ此共同分割者即チ乙者ハ曩ニ甲者ヨリ此一分ノ讓受ヲ爲シタル第三者ヨリ追奪ヲ受ケ又ハ抵當債權者ヨリ抵當訴權ノ行使ヲ受クヘキナリ然ルトキハ乙者ハ分割前ニ在テ讓渡又ハ設定ヲ爲シタル甲者ニ對シ擔保ヲ要求シ又ハ賠償ヲ請求スルニ至ルヘシ而シテ乙者モ亦分割前ニ在テ遺贈財產ノ一分ヲ第三者ニ讓渡シ又ハ之ヲ以テ物權



ヲ設定シタルトキハ甲者ヨリ擔保又ハ賠償ノ請求ヲ受クヘキナリ而シテ此等ノ共同分割者ハ概テ親族若クハ知友間ノ者ナレハ成ル可ク紛擾ノ媒タル擔保及ヒ賠償ノ請求ヲ相互ニ爲スコトアルヲ避ケシムルノ可ナルノミナラス或ハ其求償セラル、共同分割者ノ無資力ナルカ爲メ分割ノ骨髓タル部分ノ不同ヲ惹起スルノ恐アルナリ然ルニ分割ノ効力ハ即チ所有權申告ナリトスルトキハ分割前ニ在テ不分財產ノ各共有者ヨリ第三者ニ授與シタル物權ニシテ若シ其物權ノ目的タル分割物ノ他ノ共有者即チ共同分割者ノ部分ニ入りタルニ於テハ其物權ヲ授與シタル者ハ即チ他人ノ物ヲ讓渡シ又ハ他人ノ物ヲ以テ物權ヲ設定シタルニ外ナラサレハ其讓渡又ハ設定ハ無効ニシテ分割者ハ第三者ヨリ分割ノ部分ニ入りタル物ノ追奪ヲ受クルカ如キコトナカルヘキナリ而シテ爰ニ立法者カ所有權申告ノ主義ヲ執リタル附從

ノ理由トシテ追言スヘキハ抑、此不分財產ナルモノハ各共有者ニ不便且不利ナルモノナレハ分割前ニ在テ其一分ノ讓受ヲ爲ス第三者ニシテ正當ニ讓受ヲ爲スモノハ甚々僅數ナルヘク其多數ハ爭テ好ミ利ニ奔ルノ奸徒ナレハ其讓受ヲ爲シタル第三者ノ利益ヲ保護セヨリモ各分割者ノ利益ヲ保護スルノ適當ナルト是ナリ

第四百十八條 各所有者ハ分割前ノ原因ニ基ク分割物ノ妨碍及ヒ追奪ニ付キ互ニ擔保ノ責ニ任ス但別段ノ合意ヲ以テ擔保ヲ免除シタルトキハ此限ニ在ラス

〔義解〕(一五一) 本條ハ各共同分割者ハ別段ノ合意ヲ以テ擔保ヲ免除シタル場合ヲ除クノ外分割前ノ原因ニ基ク分割物ノ妨碍及ヒ追奪ニ付キ互ニ擔保ノ責ニ任スル旨ヲ定ム



各分割者間ニ於ケル分割部分ノ平均ナルヘキトハ既ニ一言シタルカ如ク分割ノ骨髓トモ謂フヘキモノナリ然レハ若シ分割前ノ原因ニ基キ例ヘハ遺言者ノ既ニ第三者ニ讓渡シタル物ヲ分割ノ部分ニ加ヘ第三者ヨリ之ヲ追奪シタルトキハ其追奪ニ係ル物ヲ以テ組立テタル部分ヲ受取リタル分割者ノ部分ニ減少ヲ來タシ爲メニ部分ノ不平均ヲ生スルヲ以テ其分割者ハ他ノ共同分割者ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得ルナリ然レモ分割後ノ原因ニ基キタル分割物ノ妨碍及ヒ追奪ハ即チ其分割物ヲ領收シタル者ノ所爲ニ基クモノナレハ他ノ共同分割者ニ於テ擔保ヲ爲スヘキモノニ非サルナリ又別段ノ合意ヲ以テ擔保ヲ免除シ例ヘハ或ル分割物ハ或ハ追奪ノ恐アルカ故ニ其分割物ヲ領受スル者ノ危険ニ對シテ其部分ヲ増加シテ分與シ右分割物ノ妨碍又ハ追奪ヲ受クルコトアルモ他ノ共同分割者ハ擔保ノ責ニ任セザ

ルヘシトノ合意ヲ承諾シタル分割者ハ其分割物ノ妨碍又ハ追奪ヲ受クルニ拘ハラズ他ノ共同分割者ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得サルナリ(財産編第百五十六條)

第四百十九條 債權ニ付テハ分割ノ當時ニ於ケル債務者ノ資力ノ限度マテニ非サレハ各所有者擔保ノ責ニ任セス

[義解] (一五二) 本條ハ分割ノ部分ニ債權ヲ包有スル場合ニ於テ其部分ヲ領受シタル分割者ニ對シ共同分割者ハ分割ノ當時ニ於ケル債務者ノ資力ノ限度ニ非サレハ擔保ノ責ニ任セサル旨ヲ規定ス債權讓渡ノ場合ニ於テハ讓渡人ハ其存立及ヒ有効ヲ擔保スルノ責ニ任スルノミニシテ債務者ノ資力ニ付テハ明示ニテ之ヲ諾約スルニ非サレハ其擔保ニ任セサルナリ(第六十八條然ルニ債權ヲ領收シタル分



割者ニ對シテハ共同分割者ハ分割ノ時ニ於ケル債務者ノ資力ノ限度  
 マテ擔保スルノ責ニ任スル所以ハ分割ハ債權讓受ノ行爲ノ如ク射利  
 ノ目的ニ出ツルモノニ非スシテ權利分畫ノ行爲ナレハ分割者間ニ部  
 分ノ不平均アルヘカラサルニ因ルナリ然レモ共同分割者ハ債權ノ額  
 マテ擔保ヲ爲スニ非スシテ分割ノ當時ニ於ケル債務者ノ資力ノ限度  
 マテノ擔保ノ責ニ任スルノミ故ニ其後ニ無資力者ト爲ルモ共同分割  
 者ニ於テ擔保ノ責ニ任セサルヤ知ルヘキナリ  
 爰ニ一言スヘキハ分割ノ當時ニ於ケル債務者ノ資力ノ限度マテノ擔  
 保ノ責ニ任スルハ單純ノ債權ヲ分割ノ部分ニ包有シタル場合ニシテ  
 有期又ハ條件附ノ債權ヲ之ニ包有セシメタル場合ニ於テハ其満期又  
 ハ條件成就ノ時ニ於ケル債務者ノ資力ノ限度マテノ擔保ニ任スヘキ  
 モノナルコト是ナリ

第三款 分割ノ銷除

第四百二十條 分割ハ財産編第三百四條以下ニ定メ  
 タル區別ニ從ヒ不成立又ハ無効ナル外尙ホ所有者  
 ノ一人カ其領收シタル部分ニ付キ四分一以上ノ欠  
 損ヲ被フリタルトキハ其欠損ノ爲メ之ヲ銷除スル  
 コトヲ得

欠損ノ査定ハ分割ノ時ニ於ケル物ノ價格ニ從ヒテ  
 之ヲ爲ス可シ

〔義解〕(一五三) 本條ハ分割者ノ一人カ其領收シタル部分ニ付キ四分  
 ノ一以上ノ欠損ヲ被フリタルトキモ亦分割ヲ銷除スルコトヲ得ル旨  
 及ヒ欠損ノ査定ハ分割ノ時ニ於ケル物ノ價額ニ從ヒテ之ヲ爲スヘキ  
 旨ヲ規定ス



分割ハ財産編第三百四條以下ニ定メタル不成立又ハ無効ノ原因ニ由リ及ヒ本節第四百九條第四百十四條ニ於テ規定シタル無能力又ハ方式ノ欠缺ニ因リ成立セス又ハ銷除スルコトヲ得ルノ外分割者ノ一人カ其領收シタル部分ニ付キ四分ノ一以上ノ欠損ヲ受ケタルトキモ亦之ヲ銷除スルコトヲ得ルナリ何トナレハ既ニ再度述ヘタルカ如ク分割ハ賣買若クハ普通ノ交換ノ如キ射利ノ行爲ニ非スシテ權利分畫ノ行爲ナレハ分割者間ニ於ケル部分ノ不平均アルヘカラサルモノナレハナリ即チ分割ハ部分ノ平均ナルヲ以テ其骨髓ト爲スモノナレハナリ然レモ飽クマテ此部分ノ平均ヲ計リ些少ノ欠損アルモ尙ホ分割ヲ銷除スルコトヲ得ルモノトスルモ或ハ分割ニシテ確定シタルモノ鮮キニ至ルヘシ蓋シ人爲ノ所爲ニシテ完全ナル平均ヲ得ルハ極メテ困難ナレハナリ然ルニ分割ニシテ些少ノ不平均アレハ即チ之ヲ銷除ス

ルコトヲ得ヘキ不確定ノモノナルニ於テハ分割ノ後各分割者カ第三者ニ自己ノ部分ヲ成シタル財産ヲ讓渡シタルモ其第三者ノ權利ハ隨テ甚タ不確定ナルヲ免カンス何トナレハ前ノ分割ニ因テ配當シタル部分ニ不平均アルカ爲メ即チ分割者ノ一人カ些少ナル欠損ヲ受ケタルカ爲メ更ニ改メテ分割ヲ爲シタルニ前ニ讓渡ヲ爲シタル分割物ハ後ノ分割ノ結果ニ依リ之ヲ讓渡シタル分割者ノ部分ニ入ラザリシモ前ノ讓受人タル第三者ノ其物ニ於ケル權利ハ爲メニ消滅ニ歸スヘケレハナリ而シテ此危險ハ爲メニ分割物ノ運轉ヲ澁滯ナラシムルニ至ルヘシ然レハ法律ハ各分割者ノ權利ヲ保護スルト同時ニ著大ナル欠損アルニ非サレハ分割ヲ銷除スルコトヲ得サルモノトシ第三者ノ利益及ヒ公益ヲ保護シタルモノナリ故ニ分割者ノ一人カ其領收シタル部分ニ付キ四分ノ一以上ノ欠損ヲ受ケタルモ換言スレハ其一人カ分割



ニ因テ應サニ受クヘキ財産額ノ四分ノ三ニ足ラサルモノヲ受ケタル  
 卽チ一萬圓ノ財産ヲ領收スヘキ場合ニ於テ七千五百圓ニ足ラサル  
 財産ヲ受ケタルキニ限リ分割ノ銷除ヲ請求スルコトヲ得ルモノトセリ  
 然レハ爰ニ一言スヘキハ分割者中假令著大ナル利益ヲ得タル者アリ  
 ト雖モ他ニ四分ノ一以上ノ欠損ヲ受ケタル者アルニ非サルトキハ分  
 割ヲ銷除スヘキ原因アラサルコト是ナリ  
 然レモ分割ニシテ合意上ナルト裁判上ナルトヲ問ハス分割者ノ一人  
 ノ不利益ニ四分ノ一以上ノ欠損ヲ惹起シタルモノハ之ヲ銷除スルコ  
 トヲ得ヘク又分割ニシテ不分財産ノ一分ニ係ルト全部ニ係ルトヲ問ハ  
 ス四分ノ一以上ノ欠損ヲ惹起シタルモノモ亦銷除スルコトヲ得ヘキナ  
 リ而シテ若シ數回不分財産ノ一分ツ、ノ分割ヲ爲シタル場合ニ於テ  
 其一回ノ分割ニ因リ前述ノ欠損ヲ惹起シタルモ數回ノ分割ヲ通シテ

右ノ欠損ヲ受ケシメサルキハ銷除ヲ爲ストヲ得ス而シテ數回ノ分割  
 アルヘキ場合ニ於テモ其一回ノ分割ニ因リ既ニ四分ノ一以上ノ欠損  
 ヲ惹起シタルキハ最終ノ分割ヲ待タスシテ銷除ヲ請求スルコトヲ得ヘ  
 キナリ何トナレハ次回ノ分割ヲ以テ必シモ前回ノ分割ニ因テ受ケタ  
 ル欠損ヲ補充スヘキヲ保セサレハナリ  
 又欠損ノ査定ハ分割ノ時ニ於ケル物ノ價格ニ從ヒテ之ヲ爲スヘキモ  
 ノナルヲ以テ分割後ニ生シタル價格ノ増加ニ因リ假令欠損ナキニ至  
 ルモ分割ノ時ニ於ケル物ノ價格ニ照シ欠損アルニ於テハ尙ホ銷除ヲ  
 請求スルコトヲ得ヘキナリ

第四百二十一條 分割銷除ノ訴權ハ財産編第五百四  
 十四條以下ニ定メタル時効及ヒ認諾ニ因リテ消滅  
 ス



〔義解〕(一五四) 本條ハ分割銷除ノ訴權ハ他ノ銷除訴權ノ如ク時効及ヒ認諾ニ因テ消滅スル旨ヲ示セリ

銷除ノ訴權ハ財産編第五百四十四條以下ニ於テ定メタルカ如ク五個年ノ時効及ヒ明示若クハ默示ノ認諾ニ因テ消滅スルナリ故ニ例ハハ四分ノ一以上ノ欠損ヲ受ケタル分割者カ任意ニ即チ分割ノ銷除ヲ請求スル原因アルコトヲ了知スルニ拘ハラズ分割ヲ執行シ例ハ任意ニ其保有セシ證書ヲ最大ノ部分ヲ領收シタル者ニ交付シ又ハ其領收シタル分割物ヲ第三者ニ讓渡シタルトキハ即チ默示ノ認諾ヲ爲シタルモノナレハ後ニ分割ノ銷除ヲ請求スルコトヲ得サルナリ

○爰ニ簡短ニ贈與ト遺贈トノ間ニ存スル異同ノ最モ著大ナルモノヲ示スヘシ

此二箇ノ處分行爲ハ共ニ無償ノモノナリ又此二箇ノ處分行爲ハ共ニ要式ノモノナリ是レ此二箇ノ行爲ノ同様ナル點ナリ又其著大ナル差異ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、贈與ハ合意ニシテ遺贈ハ合意ヲ成サ、ル權利行爲ナリ

第二、贈與ハ之ヲ廢罷スルコトヲ得サルヲ以テ規則トシ遺贈ハ之ヲ廢罷スルコトヲ得ルヲ以テ規則トス

第三、不能又ハ不法ノ條件ヲ附シタル贈與ハ無効ナリト雖モ不能又ハ不法ノ條件ヲ附シタル遺贈ハ此條件ヲ附セサルモノト看做シ有効ナリ

第四、遺贈ハ或ル財産ノ部分ヲ超過シテ之ヲ爲スコトヲ得スト雖モ贈與ヲ以テハ總テノ財産ヲ處分スルコトヲ得

第五、贈與ヲ爲スコトヲ得サル者ニシテ遺贈ヲ爲スコトヲ得ル者アリ刑事上禁治産者及ヒ自治産ノ未成年者ノ如キ是ナリ



第十五章 夫婦財産契約

〔總説〕

（一五五）夫婦財産契約モ亦財産ノ取得方法ナリ而シテ此財産契約ハ後ニ概示スヘキカ如ク數多ノ種類アリテ其制ノ如何ニ因リ或ハ所有權ノ取得方法ヲ成スモノアリ或ハ收益ノミノ取得方法ヲ成スモノアリ（本邦ニ於ケル法定ノ制ハ後ニ示スヘキカ如ク收益ノミノ取得方法ナリ）或ハ取得方法ヲ成サ、ルモノアリ（其取得方法ヲ成サ、ルモノハ最モ例外ニ屬ス）而シテ此夫婦財産契約ニ依ル取得方法ハ相續及ヒ財産ノ全部又ハ一分ノ贈與又ハ遺贈ノ如ク包括ノモノナリ  
 夫婦財産契約ハ婚姻ノ從タル契約ナレハ若シ婚姻ノ不成立タリ又ハ無効ト爲リタルモ亦隨テ不成立タリ又ハ無効ト爲ルモノナリ然レモ此契約ノ法律ニ反シ又ハ善良ノ風俗ニ悖ルカ爲メ不成立タリ又ハ

無効ナルモト雖モ主タル婚姻ハ爲メニ無効ト爲ルモノニ非ス此場合ニ於テハ婚姻ハ成立シ隨テ支辨スヘキ費用ヲ生スヘキト勿論ナレハ夫婦ハ財産上ノ契約ヲ爲サスシテ婚姻シタルモノト做シ即チ法定ノ制ニ從ヒテ婚姻ヲ爲シタルモノト做シ此制ニ付キ定メタル規則ニ從ヒ其費用ヲ支辨スヘキナリ  
 夫婦財産契約ハ財産ノ取得方法ニシテ有償ノモノナリ何トナレハ此契約ニ因リ財産ヲ取得スル者ハ其財産ヲ以テ婚姻ヨリ生スル費用即チ婚姻ノ繼續中夫婦及ヒ其子ノ生活上必要ナル費用ヲ支辨セサルヘカラサレハナリ  
 夫婦ヲラントスル男女ハ其婚姻ノ後ニ於ケル財産上ノ關係ニ付キ契約ヲ爲スニ付テハ苟モ公ノ秩序ヲ紊亂セス又ハ善良ナル風俗ニ悖ラサル以上ハ自由ニ其約款ヲ定ムルヲ得ルナリ若シ風俗ヲ壞リ又ハ



公ノ秩序ヲ害スル約款ヲ加ヘタルモハ其約款ノミ無効ナルヘシ

第一節 總則

第四百二十二條 夫婦財産契約ハ婚姻ノ儀式前ニ之ヲ爲シ及ヒ公證人ヲシテ其證書ヲ作ラシムルニ非サレハ成立セス

婚姻ノ儀式後ハ契約ヲ變更スルコトヲ得ス

〔義解〕(一五六) 本條ハ夫婦財産契約ハ婚姻ノ儀式前ニ公證人ヲシテ其證書ヲ作ラシメ之ヲ爲サ、ルヘカラサル旨及ヒ婚姻ノ儀式後ハ之ヲ變更スルコトヲ得サル旨ヲ定ム

夫婦財産契約ハ要式契約ナリ然レハ當事者ノ承諾ノミヲ以テ成立スヘキモノニ非ス公證人ヲシテ其證書ヲ作ラシムルニ非サレハ契約ハ成立セサルモノナリ而シテ夫婦財産契約ヲ以テ要式ノ合意ト爲スノ

必要ハ若シ私署ノ證書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトセン乎婚姻後ハ夫婦ノ一方ハ他ノ一方ノ意思ヲ抑制スルコト往々ナリ若シ果シテ然ルコトアラフカ其一方ハ財産契約中自己ニ不利益ナル約款アルトキハ他ノ一方ヲ強テ其證書ヲ毀滅セシムルノ恐アリ加之ナラス夫婦財産契約ノ如キ夫婦ノ現在及ヒ將來ニ所有スヘキ財産ノ一般ニ涉ル重要錯雜ナル合意ハ其職務上此等ノ契約ノ取結ニ熟練シタル公證人ノ補助ヲ得テ之ヲ爲スコト必要ニシテ且此公證人ヲシテ其證書ヲ作ラシムルニ非サレハ意義ノ明晰ヲ缺キ後日ノ紛擾ヲ醸スコト尠少ナラサルニ因ルナリ

又夫婦財産契約ハ公證人ヲシテ其證書ヲ作ラシムルニ非サレハ成立セサルノミナラス婚姻ノ儀式前ニ之ヲ取結フニ非サレハ成立セサルナリ蓋シ夫婦財産契約ハ既ニ述ヘタルカ如ク婚姻後夫婦ノ財産上ニ



關スルノミナラス其婚姻ヨリ生スル費用ノ支辨ニ關スルモノナリ然レハ婚姻ノ後ハ直チニ財産上ノ關係ヲ生シ又支辨スヘキ費用ヲ生スヘキニ因リ婚姻ノ儀式前ニ之ヲ爲スノ要アルノミナラス若シ婚姻ノ儀式後ニ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトスルトキハ前ニ述ヘタルカ如ク婚姻後ハ夫婦ノ一方ハ他ノ一方ノ意思ヲ抑制スルコトナキヲ保セサルモノナレハ婚姻後ニ財産契約ヲ爲サン乎其一方ハ他ノ一方ノ意思ヲ壓抑シテ自己ニ利益ニシテ他ノ一方ニ不利益ナル約款ヲ以テ契約ヲ爲サシムルノ恐アリ是レ法律ニ於テ婚姻ノ儀式前即チ夫婦タラントスル男女ノ各自特立不羈ノ精神ヲ以テ財産上ノ契約ヲ取結フコトヲ得ル時ニ之ヲ爲スヘキモノトシ隨テ婚姻後ニ契約ヲ爲シタラシムル其契約ハ雙方ノ自由ナル意思ニ出テタルモノニアラストシ成立セサルモノト做シタル所以ナリ又若シ此契約ハ婚姻前ニ爲シタルニアラ

サレハ成立セストノ規定ナカラシカ夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ意思ヲ壓抑スル時間即チ婚姻繼續中ハ其一方ハ他ノ一方ヲシテ自己ニ利益ニシテ彼ニ不利益ナル種々ノ契約ヲ爲サシムルノ不幸ニ陥ルヘキナリ

又婚姻ノ儀式後ハ假令夫婦其他總テノ利害關係人ノ立會及ヒ承諾アルトキト雖モ其以前ニ取結ヒタル契約ヲ變更スルコトヲ得サルナリ而シテ若シ此契約ヲ變更スルコトヲ得サルノ規定ナカラシカ財産契約ハ婚姻ノ儀式前ニ爲シタルモノニ非サレハ成立セストノ規定ハ徒法ニ屬スヘキナリ何トナレハ配偶者ノ意思ヲ抑制スル夫婦ノ一方ハ其配偶者ヲシテ強テ自己ニ不利益ナル約款ノ變更ヲ承諾セシメ新クニ自己ニ利益ナル約款ヲ承諾セシムルニ至ルヘクハナリ加之ナラス前契約ノ變更ハ即チ一ノ契約ナレハ婚姻ノ儀式前ニ非サレハ之ヲ



爲スコトヲ得サルヤ第一項ノ規定ヲ推究スルニ於テ其理自ラ明晰ナルヘシ

婚姻ノ儀式前ニ在テハ一旦取結ヒタル契約ヲ變更スルコトヲ得ヘキナリ然レモ其變更ヲ爲スニ付テハ利害關係人ノ立會ヲ以テ最初契約ヲ取結ヒタル時ニ於ケルカ如ク公證人ヲシテ其契約變更ノ證書ヲ作ラシムルニ非サレハ變更ニ係ル契約ハ無効ナリ而シテ爰ニ注意スヘキハ最初財産契約ヲ爲シタル時ニ於テ例ヘハ第三者タル贈與者アリタルモ其承諾及ヒ立會ナクシテ契約ヲ變更スルヲ得ヘキト是ナリ蓋シ其贈與者ノ立會ナキニ拘ハラズ契約ノ變更ハ有効ナリト雖モ當事者ハ其贈與ノ利益ヲ拋棄シタルモノト看做シ其贈與ハ無効ニ歸スヘキナリ要スルニ第三者タル贈與者ハ契約ノ變更ニ立會ハサルモ當事者ハ有効ニ最初ノ契約ヲ變更スルコトヲ得ルト雖モ夫婦ハ勿論其契約ノ

成立及ヒ有効ニ關シテ其立會ノ必要ナル者例ヘハ婚姻ノ許諾ヲ與フヘキ尊屬親ノ如キハ必ス其變更ニ立會ヒ變更ヲ許諾スルニ非サレハ變更ニ係ル契約ハ無効ナルナリ

第四百二十三條 婚姻ヲ爲スコトヲ得ル未成年者ハ

婚姻ノ許諾ヲ與フ可キ尊屬親又ハ後見人ノ立會ニ

テ財産契約ヲ爲スコトヲ得

〔義解〕(一五七) 本條ハ未成年者ハ婚姻ノ許諾ヲ與フヘキ者ノ立會ニテ財産契約ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ定ム

或ル年齢ニ達シタル未成年者ハ或ハ尊屬親ノ許諾ヲ得或ハ後見人(又ハ育兒院ノ院長)ノ許諾ヲ得テ婚姻ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ而シテ其婚姻ヲ爲スルハ直チニ夫婦相互ノ財産上ノ關係ヲ生シ及ヒ婚姻ヨリ生スル種々ノ費用ヲ支辨セサルヘカラス然ルニ若シ婚姻ヲ爲スコトヲ



得ル未成年者ニシテ夫婦財産契約ヲ爲スコトヲ得サルモハ是レ婚姻ヲ爲スコトヲ得サル者ト同様ナリト謂フヘシ然レハ法律ハ婚姻ノ許諾ヲ與フヘキ尊屬親又ハ後見人ノ立會ニテ未成年者ニ財産契約ヲ爲スコトヲ許セリ而シテ既ニ第三百六十六條ニ於テモ未成年者ノ夫又ハ婦ハ夫婦財産契約ヲ以テ婚姻ノ許諾ヲ與フヘキ者ノ許諾及ヒ立會ヲ得テ贈與ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ規定セリ(又第三百五十五條第四號參看)故ニ未成年者ト雖モ財産契約ヲ爲スニ方テハ法律ニ於テ最モ完全ナル承諾ヲ要スルモノトシ有能者自身ニ非サレハ代表人ニ依テ爲スコトヲ許サ、ル所ノ處分即チ贈與ヲモ爲スコトヲ得ルモノトセリ以テ法律ハ夫婦ヲラントスル男女相互ノ間ニ於ケル相互ノ無償處分ヲ容易ナラシメ婚姻ヲ獎勵シタルノ程度ヲ推知スルニ足ルヘキナリ而シテ此尊屬親又ハ後見人カ財産契約ノ取結ニ立會ヲ所以ハ單ニ方式上然ル

ノミナラス未成年者ノ將來ヲ慮リ之ニ必要ナル注意ヲ喚起シ若シ其未成年者ニ不利益ナル約款ヲ設ケントスルトキハ其約款ヲ修正スヘキノ意見ヲ述ヘ尙ホ其意見ノ行ハレサルトキハ一旦與ヘタル婚姻ノ諾許ヲモ取消スコトヲ得ヘキナリ然レハ前述ノ者ノ立會ハ未成年者ノ能力ヲ補充スルモノタルニ外ナラス其立會ニテ成リタル財産契約ハ即チ假令明示ニ許諾ヲ與フルコトナキモ默示ニ之ヲ與ヘタルモノナルナリ

若シ此婚姻ノ許諾ヲ與フヘキ尊屬親又ハ後見人ノ立會ナクシテ財産契約ヲ爲シタルトキハ其契約ハ不成立ナルヤ將タ單ニ無効ナルヤ今マ述ヘタル如ク此立會ハ未成年者ノ能力ヲ補充スルモノタルニ外ナラサレハ其立會ナクシテ爲シタル財産契約ハ單ニ無効ニシテ銷除スヘキ原因ヲ有スルモノナリト做サ、ルヘカラス(財産編第五百四十七



條

第四百二十四條 財產契約ヲ爲サスシテ婚姻ヲ爲シ

タルトキハ財產ノ關係ハ法定ノ制ニ從フ

〔義解〕(一五八) 本條ハ財產契約ヲ爲サスシテ婚姻ヲ爲シタル者ハ法定ノ制ニ從フヘキモノタルコトヲ規定ス

財產契約ヲ爲サスシテ婚姻ヲ爲シタル者及ヒ成立ニ必要ナル條件ヲ缺キタルカ爲メ不成立ナル財產契約又ハ有効ニ必要ナル條件ヲ缺キタルカ爲メ銷除セラレタル財產契約ヲ爲シタル者ニシテ即チ之ヲ爲サスシテ婚姻ヲ爲シタルト同一ナル者ハ法定ノ制ニ從ヒ婚姻ヲ爲シタルモノト看做スヘキモノナリ而シテ法定ノ制ハ第二節ニ於テ説明スヘキヲ以テ爰ニ其如何ナル意ナルヤヲ説明スルヲ得ス只爰ニ一言スヘキハ制トハ夫婦ノ財產上ノ關係ニ付テノ規定ノ全體ヲ指スモノ

タルト是ナリ

要スルニ婚姻ヲ爲シタル男女ノ婚姻ノ儀式前其財產契約ヲ爲サ、ルルハ其儀式後ニ之ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テ即チ當初ヨリ法定ノ制ニ從フヘク別ニ契約ヲ爲スヲ要セスト思料シテ契約ヲ爲サ、リシモノト做シ又ハ財產契約ヲ爲シタリト雖モ條件ヲ缺キタルカ爲メ其成立セス若クハ銷除ト爲リタルモ更ニ契約ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テ夫婦ハ即チ法定ノ制ニ從ヒ婚姻シタルモノト做サ、ルヲ得サルナリ然レハ夫婦ハ婚姻後ニ此法定ノ制ニ從フノ意思ナカリシト主張スルコトヲ得サルヤ言ヲ俟タサルナリ

戸主ニシテ婚姻セントスル者カ財產ヲ有スルヤ言ヲ俟タス又家族ニシテ婚姻セントスル者ト雖モ往時ニ異リテ特有財產即チ自己ニ專全ナル財產ヲ所有スルコトアルヘキハ既ニ人事編第二百四十五條ニ於テ



モ之ヲ明認シテ規定スル所アリ而シテ夫婦タル者ハ其資力ニ應シテ婚姻ヨリ生スル一切ノ費用ヲ分擔スヘキハ蓋シ當然ノ義務ナルヘシ又夫婦ハ假令財産契約ヲ爲サスト雖モ其資力ト能力トニ應シテ婚姻ヨリ生スル費用ヲ支辨スルコトハ法律ノ規定アルト否トニ拘ハラズ既ニ實際ニ行ハル、所ナリ然レモ婚姻ノ儀式前ニ於テ夫婦ヲラントスル者カ豫メ其將來ニ於ケル財産ノ關係ヲ熟議シテ適宜ノ契約ヲ爲スハ後日ノ紛争ヲ未萌ニ防クノ益アルナリ而シテ若シ其契約ヲ爲サ、ル者ハ即チ法定ノ制ニ從ヒタルモノト看做シ夫婦間若クハ其一方ト他ノ一方ノ相續人トノ間ニ生スルコトアルヘキ爭論ヲ判決スルノ標準ヲ示シ裁判官ノ擅斷ヲ豫防シタルモノナリ然レハ法定ノ制ハ財産契約ヲ爲サ、ル夫婦ノ財産上ノ關係ニ付キ適用スヘキ制タルニ外ナラス

夫婦ヲラントスル者ハ此法定ノ制ニ從ヒ相互ノ財産上ノ關係ヲ處置スルコトヲ欲セサランカ苟モ公ノ秩序ヲ紊タサス又善良ナル風俗ニ悖ラサル限リハ自由ニ其欲スル所ノ契約ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ故ニ此法定ノ制ニ變更ヲ加ヘ又ハ其他全ク其類ヲ異ニシタル種々ノ契約ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ今其種類ノ異ナリタル二三ノ制ニシテ外國ニ行ハル、モノヲ左ニ掲ケ夫婦ヲラントスル者ニシテ法定ノ制ニ異ナリタル契約ヲ爲サントスル者ノ爲メニ參考ニ供スヘシ但其大體ニ止マリ詳細ナル規則ヲ說示スルニ遑アラサルヤ言ヲ俟タサルナリ

第一、財産全部ノ共通 此制ニ於テハ不動産タルト動産タルト元本タルト收益タルト物權タルト人權タルトヲ問ハス夫婦各自ノ現在(婚姻ノ時)及ヒ將來ニ所有スル一切ノ財産ヲ舉ケテ共有ト爲スノ制ナリ此制ハ夫婦ノ間ニ財産上ノ關係ヲモ共同ナラシメ共ニ勉勵シ蓄財ス



ルヲ獎勵スルノ利益及ヒ婚姻解消ノ時ニ於テ財産ヲ容易ニ分割スル  
コトヲ得ルノ利益アリ

第二、財産分別ノ制 此制ニ於テハ夫婦各自ノ現在及ヒ將來ニ所有  
スル財産ハ總テ之ヲ分別シ婚姻ヨリ生スル費用ヲ支辨スル各自ノ分  
擔スヘキ部分ハ契約ヲ以テ之ヲ定ムルモノナリ此制ハ夫婦ノ間ハ總  
テ隔絶セズ恰モ兩身合體タルカ如クナルヘシトノ婚姻ノ主義ニ反ス  
ルノミナラス互ニ自己ノ利益ヲ圖リ紛擾ノ種子ヲ醸成シ又費用ノ分  
擔ニ付テモ爭論ノ種子ヲ醸成スルノ弊アリ然レモ此制ハ財産ノ共有  
ヨリ生スル弊ヲ存セス又夫婦ノ各自ハ自由ニ其財産ヲ處置スルヲ  
得ルノ便利アルナリ

第三、極端ニ位スル前述二箇ノ制ノ中間ニ在ル制ハ種々ニシテ一々  
爰ニ枚擧スヘカラスト雖モ其一ニテ擧クレハ第一、動産共通ノ制是ナ  
リ此制ニ於テハ夫婦各自ノ現在及ヒ將來ニ所有スル不動産ハ之ヲ分  
別シ動産ノミヲ共有ト爲スモノナリ此制ハ夫婦ノ權利上不公平ヲ生  
スルノ嫌アリ何トナレハ一方ハ許多ノ不動産ヲ有シ他ノ一方ハ許多  
ノ動産ヲ有スル場合ニ於テ不動産ヲ有スル一方ハ大ナル利益ヲ得テ  
動産ヲ有スル他ノ一方ハ大ナル損失ヲ受クヘケレハナリ第二、所得共  
通ノ制是ナリ此制ニ於テハ夫婦各自ノ現在及ヒ將來ニ所有スル總財  
産ノ元本ハ之ヲ分別シ其所得ノミヲ共通ト爲スモノナリ此制ハ夫婦  
各自ノ所有スル財産ノ元本ヲ其各自ニ保存セシメ婚姻中其元本ヨリ  
生スル所得及ヒ夫婦ノ勞動ニ因リ生スル所得ヲ共有ト爲スモノナレ  
ハ夫婦ヲシテ共同一致勉勵勞動セシムルノ益アリ且費用ノ分擔ニ付  
キ爭擾ヲ生スルノ弊ナシ第三、制限財産分別ノ制是ナリ此制ニ於テハ  
夫婦各自ノ財産ヲ分別スルモ其一方ヲシテ他ノ一方ノ財産ヲ收益及



管理セシメ而シテ其一方ヲシテ婚姻ヨリ生スル總テノ費用ヲ負擔セシムルモノナリ此制ハ即チ第二節ニ規定スル法定ノ制タルニ外ナラス

尙ホ爰ニ一言スヘキハ我法律ニ於テモ此種々ナル財産ノ制ヲ以テ契約ヲ爲スコアルヘキヲ假定シ商法第十三條第十四條ノ如キハ其場合ニ對スル規定ヲ掲ケタルト是ナリ

第四百二十五條 日本ニ於テ財産契約ヲ爲サスシテ

婚姻ヲ爲シタル外國人ハ夫タル者ノ本國ニ行ハルル普通ノ制ニ從ヒタルモノト看做ス

〔義解（一五九）〕本條ハ日本ニ於テ財産契約ヲ爲サスシテ婚姻ヲ爲シタル外國人ハ如何ナル財産ノ制ニ從ヒタルモノト看做スヘキヤヲ知ラシム

外國人カ財産契約ヲ爲サスシテ日本ニ於テ婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テハ夫タル者ノ本國ニ行ハル、普通ノ例ニ從ヒタルモノト看做ス其然ル所以ハ國民分限ヲ異ニスル男女ノ婚姻スルキハ法律ニ於テハ夫ハ夫ノ分限ニ從フモノト規定セリ（人事編第十條第十五條）然レハ夫婦ハ夫婦ノ本國ニ行ハル、普通ノ制ニ從ヒ婚姻シタルモノト看做スヘキニ非サルヤ言テ俟タサルヘシ然レハ夫婦ハ日本ニ於テ婚姻シタルヲ以テ日本ニ行ハル、普通ノ制即チ法定ノ制ニ從フヘキモノナルカ前ニ述ヘタルカ如ク夫婦財産契約ハ婚姻ノ從タル契約ナリ男女カ因テ以テ夫タリ婦タルノ分限ヲ取得スル効力ヲ生スルノ契約ナリ然レハ夫婦財産契約ハ夫婦ノ財産ニ關スルモノナリト雖モ亦人ノ身分ニ關係スルモノナレハ前述ノ場合即チ財産契約ヲ爲サスシテ婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テハ其夫ノ本國ニ行ハル、普通ノ制ニ從ヒタルモノト



看做スヘキハ當然ナリ(法例第三條)故ニ例ヘハ佛蘭西ノ男ト伊太利ノ女ト日本ニ於テ財産契約ヲ爲サスシテ婚姻ヲ爲シタルキハ佛國ニ行ハル、普通ノ制ニ從ヒタルモノト看做スヘキハ勿論佛蘭西ノ男ト日本ノ女ト日本ニ於テ財産契約ヲ爲サスシテ婚姻ヲ爲シタルキト雖モ亦佛國ニ行ハル、普通ノ制ニ從ヒタルモノト看做スヘキナリ

第二節 法定ノ制

第四百二十六條 婦又ハ入夫カ婚姻ノ儀式ノ時ニ於テ現ニ所有シ又ハ將來ニ所有ス可キ特有財産ヨリ婚姻中ニ生スル果實及ヒ自己ノ勞力ニ因リテ婚姻中ニ得タル所得ハ婚姻中ノ費用分擔ノ爲メニ之ヲ配偶者ニ供出シタルモノト看做ス

〔義解〕(一六〇) 本條ハ婦又ハ入夫ハ其特有財産ヨリ生スル果實及ヒ

其勞力ニ因リテ得タル所得ハ婚姻中ノ費用分擔ノ爲メ配偶者ニ供出シタルモノト看做ス旨ヲ規定ス

婦又ハ入夫ハ其配偶者ノ家ニ入ル者ナリ而シテ此婦又ハ入夫ハ婚姻ノ儀式ノ時ニ所有スル一切ノ財産及ヒ婚姻中即チ將來ニ贈與又ハ遺贈ニ因リテ取得スル財産ヲ以テ其特有財産ト爲ス者ナリ此二種ノ特有財産ヨリ婚姻中即チ婚姻ノ儀式ヲ行ヒタルヨリ婚姻ノ解消ニ至ルマテノ時間ニ生スル果實及ヒ此時間ニ於テ自己ノ勞力ニ因リテ得タル所得即チ收益ハ婚姻中ノ費用例ヘハ衣食住、子ノ教育養育ノ費用其他夫婦ノ地位ニ相應スヘキ費用ヲ分擔スル爲メ夫又ハ戸主タル婦ニ之ヲ供出シタルモノト看做スナリ爰ニ注意スヘキハ法文ニハ特有財産ヨリ生スル果實トアルヲ以テ例ヘハ婚姻中婦又ハ入夫ノ不動産ニ付キ發見シタル埋藏物ノ如キハ其婦又ハ入夫ノ特有財産ト爲ルヘキ



モノニシテ之ヲ其配偶者ニ供出シタルモノト看做スヘカラサルコト  
 是ナリ何トナレハ埋藏物ハ果實ニ非サレハナリ又婦又ハ入夫カ婚姻  
 中自己ノ勞力ニ因テ得タル賃金俸給ノ如キハ法文ニモアルカ如ク之  
 ナ以テ元本ト做スヘキニ非サルコト是ナリ何トナレハ其身體能力ハ  
 即チ元本トモ稱スヘキモノナレハナリ

夫又ハ戸主タル婦ハ婚姻中其配偶者ノ特有財産ヨリ生シタル果實及  
 ヒ其勞力ニ因テ得タル所得ヲ領收シ之ヲ家事ノ費用ニ充テサルヘカ  
 ラス而シテ費用ニ充テ尙ホ剩餘アルトキハ其剩餘ハ夫又ハ戸主タル  
 婦ノ専全ノ所有ニ屬スルモノナリ又夫又ハ戸主タル婦ハ自己ノ財産  
 ナ以テ家事ノ費用ヲ分擔シ又若シ其配偶者ノ供出スル所得ナキトキ  
 ハ自ラ費用ノ全部ヲ負擔セサルヘカラス

婦又ハ入夫ハ婚姻ノ儀式ヲ行フト同時ニ前述ノ所得ヲ配偶者ニ供出  
 シタルモノト看做スヘキナリ何トナレハ婚姻ハ其儀式ヲ行フト同時  
 ニ成リ直チニ費用ヲ要スヘキモノナレハナリ然レモ財産契約ハ第三  
 者ニ對シテハ婚姻ノ届出後ニ非サレハ効力ヲ生セサルナリ(人事編第  
 六十七條然レハ婦又ハ入夫カ婚姻ノ届出後其特有財産中例ヘハ一箇  
 ノ不動産ヲ第三者ニ讓渡シタルトキハ夫又ハ戸主タル婦ハ其讓受人  
 タル第三者ニ對シテ用益權ヲ對抗スルコトヲ得ヘキヲ以テ讓受人ハ  
 虛有權ヲ讓受ケタルニ過キサルナリ之ニ反シテ婦又ハ入夫カ婚姻ノ  
 儀式後其届出前ニ其特有財産ヲ第三者ニ讓渡シタルトキハ第三者ハ  
 其財産ノ完全ナル所有權ヲ取得スヘキナリ何トナレハ第三者ニ對シ  
 テハ夫婦財産契約ハ婚姻ノ届出後ニ非サレハ之ヲ對抗スルコトヲ得  
 サレハナリ而シテ婚姻ノ届出後ニ第三者ニ對シ財産契約ヲ對抗スル  
 コトヲ得ル所以ハ婚姻ノ届出ニハ夫婦ノ爲シタル財産契約ヲモ申述



スヘキモノナリ又若シ其申述ヲ爲サ、ル場合ニ於テハ法定ノ制ニ從ヒタルモノニ外ナラサレハ第三者ハ婚姻證書ヲ取調ヘテ財産契約ノ申述ナキコトヲ了知スルトキハ其讓受クル財産ノ所得タルヤ婚姻ノ繼續中ハ夫又ハ戸主タル婦ニ屬スルモノタルコトヲ容易ニ推知スルヲ得ヘケレハナリ

第四百二十七條 夫又ハ戸主タル婦カ配偶者ノ特有

財産ニ付テ有スル權利ハ用益者ノ權利ニ同シ

又配偶者ノ特有財産ニ關シテ收益ヲ爲ス夫又ハ戸

主タル婦ハ用益者ノ負擔スル修繕其他收益ヲ以テ

辨濟ス可キ義務ヲ負フ

〔義解〕(一六一) 本條ハ戸主タル婦ハ配偶者ノ特有財産ニ付テハ用益者ノ權利ニ同シキ權利ヲ有シ又用益者ノ負擔スル義務ニ同シキ義務

ヲ負擔スル旨ヲ示セリ

夫又ハ戸主タル婦カ配偶者ノ特有財産ニ付テ有スル權利ハ用益者ノ權利ニ同シトハ此財産ノ所得ヲ取得スルノ方法及ヒ限度ニ關シテ然ルヲ謂フモノニシテ其權利ノ用益者ノ權利ト毫モ異ナラスト謂フノ意ニ非サルヲ知ルヘシ何トナレハ若シ用益者ノ權利ト同一ナリセハ單ニ夫又ハ戸主タル婦ハ其配偶者ノ特有財産ノ用益者ナリト規定スルノ簡ナルニ如カス然ルニ夫又ハ戸主タル婦カ云々ニ付テ有スル權利ハ用益者ノ權利ニ同シトアレハナリ故ニ例ヘハ夫又ハ戸主タル婦ハ其配偶者ノ特有財産ニシテ法定ノ果實ヲ生スルモノナルトキハ財産編第五十四條ニ從ヒ日割ヲ以テ之ヲ取得シ又其天然ノ果實ヲ生スルモノナルトキハ第五十二條ニ從ヒ土地ヨリ之ヲ離シタルヲ以テ之ヲ取得シ又金錢其他日用品ノ如キ消滅スルニ非サレハ使用シ及ヒ收



益スルコトヲ得サル動産ナルキハ同編第五十五條ニ從ヒ之ヲ消費シ又ハ讓渡シテ收益スルコトヲ得ヘキナリ又例ヘハ大小木ノ樹林又ハ竹林ナルキハ同編第五十九條ニ從ヒ從來ノ所有者ノ慣習及ヒ採伐方ニ從ヒ定期ノ採伐ヲ爲シテ收益スルコトヲ得ヘキナリ然レモ夫又ハ戸主タル婦ハ通常ノ用益者ト異ニシテ其用益權ヲ有償又ハ無償ニテ讓渡シ賃貸シ又ハ用益ニ付スルコトヲ得サルナリ何トナレハ此等ノ者カ配偶者ノ特有財産ヨリ生スル所得ヲ收受スル所以ハ婚姻中ノ費用ヲ支辨センカ爲メナルニ其收受ノ權利ヲ讓渡スカ如キハ即チ其目的ニ背馳スルヤ言ヲ俟タサレハナリ

夫又ハ戸主タル婦ハ配偶者ノ特有財産ニシテ自ラ其所得ヲ收受スルモノニ關シテハ用益者ノ負擔スル修繕即チ小修繕ノ費用其他此特有財産ニ賦課セラル、租稅通常ノ公課又ハ婦若クハ入夫カ婚姻ノ儀式

ノ時ニ負擔シタル債務ノ利息等ヲ總テ收益ヲ以テ辨濟スヘキ義務ヲ負擔スルナリ然レモ此等ノ者ハ通常ノ用益者ト異ニシテ前述ノ所得ヲ收受スル前ニ動産ノ目錄、不動産ノ形狀書ヲ作り又ハ保證人若クハ擔保ヲ立ツルノ義務ヲ負擔セサルナリ

第四百二十八條 夫ハ婦ノ特有財産入夫ハ戸主タル

婦ノ財産ヲ管理ス

〔義解〕(一六二) 本條ハ夫ハ入夫タルト否トヲ問ハス其配偶者ノ財産ノ管理者タル旨ヲ規定ス

婦ハ戸主タルト否トヲ問ハス一種ノ無能力者ナレハ財産ノ管理ハ夫ノ之ヲ爲スヲ以テ實際上宜ヲ得タルモノト謂フヘシ然レハ夫ハ婦カ特有財産ヲ有スルトキハ之ヲ管理シ而シテ其生スル所ノ所得ハ第四百二十六條ニ從ヒ自ラ之ヲ取得シ又入夫ハ戸主タル婦ノ財産及ヒ自



己ノ特有財産ヲ管理シ此二種ノ財産ヨリ生スル所得タル即チ婦ニ屬スルモノナレハ時期ヲ定メテ婦ニ其額ヲ計算シ其他管理上ノ報告ヲ爲サ、ルヘカラス而シテ夫ハ入夫タルト否トヲ問ハス婦ノ法律上ノ管理人タリト雖モ此管理ハ或ル場合ニ於テハ婦自ラ之ヲ爲シ又ハ夫ニ代テ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ第四百三十二條及ヒ人事編第二百二十四條、第二百三十二條、第二百三十四條ノ場合即チ是ナリ

第四百二十九條 夫又ハ入夫ハ婦又ハ戸主タル婦ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ婦ノ特有財産又ハ戸主タル婦ノ財産ヲ讓渡シ又ハ之ヲ擔保ニ供スルコトヲ得ス但人事編第二百二十九條及ヒ第二百七十五條ノ場合ハ此限ニ在ラス

〔義解〕(一六三) 本條ハ夫又ハ入夫ハ或ル場合ヲ除クノ外其婦ノ承諾

ヲ得ルニ非サレハ婦ノ財産ヲ讓渡シ又ハ之ヲ擔保ニ供スルコトヲ得サル旨ヲ定ム

財産ノ管理者タル夫入夫ハ即チ夫ナレハ別ニ入夫ノ字ヲ加ヘス以下同シハ被管理者タル婦(戸主タル婦ハ即チ婦ナレハ別ニ戸主タル婦ノ字ヲ加ヘス以下同シ)ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ管理行爲外ニ涉レル財産ノ讓渡ヲ爲シ又其財産ヲ以テ擔保ヲ設定スルコトヲ得サルナリ蓋シ財産ノ讓渡ハ固ト所有者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノニシテ而シテ擔保ノ設定ハ一種間接ノ讓渡ヲ成スモノタルニ外ナラス即チ若シ債務者カ自ラ債務ヲ辨濟スル能ハサルトキハ擔保ノ目的タル財産ノ讓渡ヲ爲スニ至ルヘキモノナレハ管理者タル夫ハ被管理者タル婦ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ其管理スル財産ニ付キ此等ノ處分行爲ヲ爲スコトヲ得サルヤ更ニ説明ヲ要セサルヘシ



管理者タル夫カ所有者タル婦ノ承諾ナクシテ管理スル財産ヲ直接又ハ間接ニ處分スルコトヲ得サルハ今述ヘ來リタルカ如ク條理ノ最モ賭易キモノナリト雖モ所有者タル婦ニ於テ其承諾ヲ表スル能ハサルノ情況ニ陥リタル場合ニ於テ若シ其承諾ヲ表スルヲ得ルニ於テハ親タルノ義務ヲ盡スカ爲メ必ラス其承諾ヲ表シタルヤ必然ナリト推測ヲ下スコトヲ得ル場合即チ其子孫ノ教育婚姻又ハ營業ノ資ニ供スルカ爲メ其財産讓渡ノ切要ナル場合ニ於テハ夫ハ專斷ニ婦ノ財産ヲ讓渡スコトヲ得サルヤ勿論ナリト雖モ親族會ノ許可ヲ得テ之ヲ讓渡スコトヲ得ヘキナリ而シテ婦タル被管理者カ右ノ承諾ヲ表スル能ハサル情況ニ陥リタル場合トハ即チ其禁治産者又ハ失踪者タル場合はナリ

第四百三十條 入夫ハ戸主タル婦ノ承諾ヲ得ルニ非

サレハ婚姻中ノ所得ヲ讓渡シ又ハ之ヲ擔保ニ供スルコトヲ得ス但其特有財産ヨリ生スル果實及ヒ自己ノ勞力ニ因リテ得タル所得ハ此限ニ在ラス

〔義解〕(一六四) 本條ハ入夫ハ婚姻中ノ所得ト雖モ其特有財産ヨリ生スル果實及ヒ自己ノ勞力ニ因テ得タルモノヲ除クノ外戸主タル婦ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得サル旨ヲ規定ス

婚姻中戸主タル婦ノ財産ヨリ生スル所得又ハ其勞力ニ因テ得タル所得ハ勿論入夫ノ特有財産ヨリ生スル果實及ヒ其勞力ニ因テ得タル所得モ亦戸主タル婦ノ所有ニ屬スルニ拘ハラス管理者タル入夫カ自己ノ特有財産ヨリ生スル果實及ヒ自己ノ勞力ニ因テ得タル所得ヲ戸主タル婦ニ供出シタルハ即チ婚姻中ノ費用ヲ分擔センカ爲メニシテ又



戸主タル婦モ亦其所得ヲ以テ婚姻中ノ費用ヲ分擔スヘキモノナレハ  
入夫ハ或ハ戸主タル婦ノ承諾ヲ得ルヲ要セスシテ其保管スル所ノ所  
得ヲ讓渡シ其代金ヲ以テ婚姻ノ費用ニ充ツルコトヲ得ヘキカ如キ觀  
ナキニ非ス然レモ法律ハ戸主タル婦ノ財産ヨリ生スル果實及ヒ其勞  
力ニ因テ得タル所得ハ婦ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ擔  
保ニ供スルコトヲ得ストシ入夫カ婦ノ承諾ナクシテ此果實及ヒ所得  
ヲ處分スルカ如キコトナカラシメ以テ婦ノ所有者タル權利ヲ敬重シ  
之ヲ確然ナラシメ又入夫ノ特有財産ヨリ生スル果實及ヒ其勞力ニ因  
テ得タル所得ハ戸主タル婦ノ承諾ヲ得ルヲ要セスシテ之ヲ處分スル  
コトヲ得ルモノトシ以テ財産ノ管理者ナリト雖モ又戸主ヲ代表シテ其  
權利ヲ行フ所ノ入夫カ管理者トシテ有スル權限ヲ擴充シ實際ノ便宜  
ヲ得セシメタルモノナリ唯一言スヘキハ入夫カ特有財産ヨリ生スル

果實及ヒ自己ノ勞力ニ因テ得タル所得ヲ戸主タル婦ノ承諾ヲ得ルヲ  
要セスシテ處分スルコトヲ得ルハ家事ノ費用ニ充ツルカ爲メニ然ルモ  
ノタルコト是ナリ若シ其權利ヲ濫用スルニ於テハ戸主タル婦ハ後ニ示  
スヘキ第四百三十二條ノ規定ニ從ヒ自ラ財産ヲ管理セシコトヲ請求ス  
ヘシ此場合ニ於テハ入夫ハ前述ノ權利ヲ有セサルヤ言テ俟タサルナ  
リ

第四百三十一條 夫カ婦ノ特有財産ニ付キ入夫カ戸

主タル婦ノ財産ニ付キ其承諾ヲ得スシテ爲ス賃貸  
借ニ關シテハ財産編第百十九條以下ノ規定ヲ適用  
ス

〔義解〕(一六五) 本條ハ夫カ婦ノ特有財産ヲ賃貸シ又入夫カ戸主タル  
婦ノ財産ヲ賃貸スルニ付テハ其所有者ノ承諾ヲ得サル場合ニ於テハ



財産編第百十九條以下ノ規定ヲ適用スヘキヲ定ム  
 夫又ハ入夫ハ婦ノ特有財産又ハ戸主タル婦ノ財産ニ付キ法律上ノ管  
 理人ナルヲ以テ婦又ハ戸主タル婦ノ承諾ヲ得スシテ其財産ヲ賃借ス  
 ルヲ得ルモノナリ然レモ若シ其承諾ヲ得スシテ賃貸ヲ爲スルハ其  
 賃貸ハ財産編第百十九條及ヒ第百二十條ニ於テ規定シタル期間ノ制  
 限ニ之ヲ服セシメサルヘカラス然ルニ若シ婦又ハ戸主タル婦ノ承諾  
 ヲ得テ賃貸借ノ合意ヲ爲サンカ其賃貸ハ右ノ期間ノ制限ニ服セサル  
 ナリ故ニ假令婚姻ノ解消シタル後ト雖モ尙ホ期間中ニ在ルトキハ其  
 賃貸ハ成立スルモノナリ又所有者ノ承諾ノ有無ニ因リ財産編第百二  
 十一條ニ從ヒ金錢外ノ有價物ヲ以テ賃貸ト爲スヲ得ルト否トノ差  
 異ヲモ生スヘキナリ(右ノ承諾ナシト雖モ耕地ノ賃貸借ニ付テハ其產  
 出物ヲ賃貸ト爲スヲ得ルナリ)而シテ爰ニ一言スヘキハ入夫ハ戸主

タル婦ノ財産ニ付テハ本條ノ規定ニ從ヒ其婦ノ承諾ヲ得スシテ賃貸  
 ヲ爲シタルモハ財産編第百十九條以下ノ制限ニ從ハサルヲ得スト  
 雖モ自己ノ特有財産ニシテ其收益ヲ婦ニ供出シタルモノニ付テハ婦  
 ノ承諾ヲ得スト雖モ前述ノ制限ニ服セサル賃貸ヲ爲スヲ得ヘキナリ  
 ナリ

第四百三十二條 管理ノ失當ニ因リ夫又ハ入夫カ婦  
 ノ特有財産又ハ戸主タル婦ノ財産ヲ危険ニ置クト  
 キハ婦又ハ戸主タル婦ハ自ラ其財産ヲ管理セント  
 請求スルコトヲ得

〔義解〕(一六六) 本條ハ夫又ハ入夫カ管理ノ失當ニ因リ婦又ハ戸主タ  
 ル婦ノ財産ヲ危険ニ置ク場合ニ於テ婦又ハ戸主タル婦ハ如何ナル權  
 利ヲ有スルヤヲ示セリ



夫カ婦ノ財産ヲ管理スルヤ其當ヲ失シ例ヘテ修繕ヲ施スヘキ財産ニ修繕ヲ加ヘス又ハ賦課セラレタル租税公課ヲ納メサルカ爲メ遂ニ財産ノ公賣セラルハニ至ルヘキ恐アル場合ニ於テハ爲メニ婦ノ特有財産ヲ危険ニ置クモノナレハ婦ハ自ラ其財産ヲ管理セシムコトヲ裁判所ニ請求シ又入夫カ管理ノ失當ニ因リ戸主タル婦ノ財産ヲ危険ニ置クハ此婦ハ自ラ其財産ヲ管理セシムコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ヘキナリ而シテ此場合ニ於テハ戸主タル婦ハ自己ノ財産ノミナラス入夫ノ特有財産ヲモ自ラ管理セシムコトヲ請求スルノ權利ヲ有スヘキナリ何トナレハ管理ノ拙劣失當ナルカ爲メ其特有財産ヲモ失フニ至ルハ入夫ハ戸主タル婦ニ供出スヘキ収益ヲ供出スルコトヲ得サルニ至リ隨テ婚姻ヨリ生スル費用ヲ分擔スルノ義務ヲ盡スコトヲ得サルニ至ルヘクニハナリ然レモ婦ハ夫ノ財産ヲ管理スルコト失當ナル場合ニ於テ其特

有財産ヲ自ラ管理セシムコトヲ請求スルヲ得ルノミニシテ夫ノ財産ヲモ自ラ管理セシムコトヲ請求スルコトヲ得サルヘキナリ若シ夫ノ浪費者ナルカ爲メ財産ノ管理ニ適當ナラサル所爲ヲ爲シ之ヲ危険ニ置クトキハ之ニ保佐人ヲ付セシムコトヲ請求スルコトヲ得ヘキノミ直チニ自ラ其財産ヲモ管理セシムコトヲ請求スルノ權ナカルヘシ又前述ノ場合ニ於テ婦カ自ラ特有財産ヲ管理セシムコトヲ請求ヲ許可セラレ自ラ之ヲ管理シタルモ夫ニ其管理ノ計算ヲ爲サルヘカヲサルヤ論ヲ俟タス尙ホ一言スヘキハ夫ノ管理ノ失當ナルヤ否ヤハ事實上ノ問題ニシテ豫シメ其範圍ヲ示ス能ハサルコト是ナリ

第四百三十三條 婦又ハ入夫カ婚姻ノ儀式ノ時ニ於テ負ヘル債務及ヒ婚姻中ニ生スル債務ニ付テハ債權者ハ婦又ハ入夫ノ特有財産ニ對シテ權利ヲ行フ



ユトヲ得

〔義解〕(二六七) 本條ハ婦又ハ入夫ノ負擔スル債務ニ付テハ債權者ハ如何ナル財産ニ對シ權利ヲ行フコトヲ得ルヤヲ定ム  
 婦又ハ入夫カ負擔スル債務ニ付テハ一ノ區別ヲ爲サ、ルヘカラス婚姻ノ儀式ノ時ニ於テ負擔スル債務即チ其以前ニ生シタル債務ニ付テハ其利息ヲ生スルモノナルトキハ第四百二十七條ノ規定ニ從ヒ夫又ハ戸主タル婦ハ其利息ヲ辨濟セサルヘカラス何トナレハ利息ハ收益ヲ以テ辨濟スヘキモノナレハナリ而シテ其元本ニ付テハ債權者ハ婦又ハ入夫ノ特有財産ノ完全ナル所有權ニ付キ權利ヲ行ヒ即チ其完全ナル所有權ヲ差押ヘテ之ヲ競賣ニ付シ因テ得タル金額ヲ以テ辨濟ヲ爲サシムルコトヲ得ヘキナリ然レモ婚姻中ニ生シタル婦又ハ入夫ノ債務例ヘハ其前婚ノ子カ結婚ヲ爲スニ方リ金額ヲ贈與スルカ爲メ借用

シタル金額ヲ辨濟スルノ義務ニ付テハ婦又ハ入夫ハ其利息ヲモ自ラ辨濟セサルヲ得サルヘシ而シテ婦又ハ入夫ノ特有財産ノ大修繕ヲ爲スカ爲メニ借用シタル債務モ亦婦又ハ入夫自ラ之ヲ辨濟セサルヘカラスト雖モ其利息ハ夫又ハ戸主タル婦ヨリ之ヲ辨償スヘキナリ(財産編第八十七條)然レハ債權者ハ前ノ場合ニ於テハ元本及ヒ利息ヲ辨濟セシムルカ爲メ婦又ハ入夫ノ特有財産ノ虛有權ニ付テノミ其權利ヲ行フコトヲ得ヘシト雖モ後ノ場合ニ於テハ元本ヲ辨濟セシムルカ爲メ前述特有財産ノ完全ナル所有權ニ付キ權利ヲ行フコトヲ得ヘキナリ  
 婚姻中ニ婦又ハ入夫カ包括ノ贈與若クハ遺贈ヲ受ケタルカ爲メ其包括財産ニ包有セラル、債務ヲ負擔スルニ至リタルハ債權者ハ其遺贈若クハ贈與ノ財産ノ完全ナル所有權ニ付キ權利ヲ行フコトヲ得ヘキ



夫又ハ戸主ナル婦ハ債權者ヲ婦又ハ入夫ノ特有財産ノ完全ナル所有  
權ニ付キ權利ヲ行フコトヲ得ル場合ニ於テ債權者ノ其權利ヲ行フコ  
トヲ欲セザルトキハ自ラ債權者ニ辨濟ヲ爲シテ又ハ入夫若クハ其  
相續人(婚姻解消ノ時ニ於テ)ヨリ其立替金ノ償還ヲ受クルコトヲ得ヘ  
キナリ

第四百三十四條 婦ノ名ヲ以テ生セシメタル債務ニ

付テハ債權者ハ其債務カ家事管理ノ爲メニ生シタ  
ルコトヲ證スルトキニ限り夫ニ對シテ其辨濟ヲ請  
求スルコトヲ得  
入夫ノ名ヲ以テ生セシメタル債務ニ付テハ債權者  
ハ其債務ノ財産管理ノ爲メニ生シタルコトヲ證ス

ルトキニ限り戸主タル婦ニ對シテ其辨濟ヲ請求ス  
ルコトヲ得

〔義解〕(一六八) 本條ハ婦又ハ入夫ノ名ヲ以テ生セシメタル債務ト雖  
モ債權者ハ夫又ハ戸主タル婦ニ對シテ其辨濟ヲ請求スルコトヲ得ル  
場合ヲ定ム

婦又ハ入夫ノ名ヲ以テ債務ヲ生セシメタル場合ニ於テ債權者ハ其債  
務者タル婦又ハ入夫ニ對シテ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ルハ勿論若シ其  
債務タルヤ家事管理ノ必要例ヘハ夫婦ノ衣食住又ハ戸主タル夫又ハ  
婦ニ屬スル財産ノ保存ノ爲メニ生シタルコトヲ認ズルトキハ婦ノ名  
ヲ假ラスシテ直接ニ夫又ハ戸主タル婦ニ對シテ辨濟ヲ請求スルコト  
ヲ得ヘキナリ何トナレハ家事管理ノ費用ハ要スルコトハ戸主タル夫又ハ  
婦ノ負擔スヘキモノナレハナリ而シテ債權者ハ婦又ハ入夫ノ名ヲ假



ラスシテ直接ニ夫又ハ戸主タル婦ニ對シ辨別ニ請求スルコトヲ得ルヲ以テ其辨別ニ因テ得タル金額ハ婦又ハ入夫ノ他ノ債權者ヨリ其分配ヲ請求スルコトヲ得サルナリ又婦又ハ入夫カ自ニ此家事管理ノ爲メニ生シタル債務ヲ辨別シタルキハ夫又ハ戸主タル婦若クハ其相續人ニ對シテ償還ヲ請求スルコトヲ得ルヤ言テ俟タサルナリ

第四百三十五條

婦又ハ入夫ノ特有財産タルコトヲ

證セサル財産ハ總テ夫又ハ戸主タル婦ニ屬スルモ

ト看做ス

〔義解〕(二六九) 本條ハ婦又ハ入夫ノ特有財産タルコトヲ證セサル財産

ハ總テ夫又ハ戸主タル婦ニ屬スルモノナル旨ヲ規定ス

婚姻ノ解消例ハ離婚若クハ夫婦ノ一方ノ死亡ノ場合ニ於テハ婦又ハ入夫若クハ其相續人ヨリ特有財産ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ヘシ而

シテ此請求ヲ爲スニハ其返還ヲ請求スル財産ノ特有財産タルコトヲ證セサルヘカラス

又婦又ハ入夫ノ債權者カ其特有財産ニ付キ權利ヲ行フニハ其權利ヲ行ハントスル財産ノ特有財産タルコトヲ證セサルヘカラス蓋シ夫婦ノ財産ハ錯雜混交シテ其孰レノ財産ノ夫ニ屬シ而シテ孰レノ財産ノ婦ニ屬スルヤハ之ヲ證明スルコト實際甚ク困難ナルヘシ殊ニ相續人又ハ債權者ノ如キハ容易ニ之ヲ證明スルコトヲ得ルヘキナリ然レモ婦又ハ入夫ノ特有財産ニ付キ權利ヲ行ヒ又ハ其心還ヲ請求セントスル者ハ必ス其權利ヲ行ハントスル財産ノ婦又ハ入夫ノ特有財産タルコトヲ證セサルヘカラス漫然其特有財産ナリト唱シテ之ヲ差押ヘ競賣ニ付スルコトヲ得サルヤ言テ俟タサルナリ而シテ其特有財産タルコトヲ證明スルコトヲ得サル財産ハ總テ夫又ハ入夫ノ主タル婦ニ屬スルモ



ノト看做スヘキハ當然ナルヘシ  
 然リト雖モ今述ヘタルカ如ク婦又ハ入夫ノ特有財産タルコトヲ證ス  
 ルノ頗ル困難ナルヲ以テ法律ニ於テハ成ル可ク之ヲ證明スル方法ヲ  
 容易ナラシメサルヘカラス然ルニ法律ニ於テハ之ノ場合ニ於テ如何  
 ナル方法ニ依リ證明スルコトヲ得ルヤノ規定ナヘニ因リ普通ノ證據  
 方法ニ依ルニ非サレハ右ノ證明ヲ爲スコトヲ得アルモノトモサルヘ  
 カラス夫レ然リ故ニ婦又ハ入夫ハ婚姻ノ儀式前ニ於テ成ル可ク財産  
 目錄ヲ作ルヘキナリ然ルニ此財産目錄ヲ調製スルノ煩ヲ避クルカ爲  
 メ又ハ之ヲ調製スルノ必要ヲ感セスシテ此法定ノ制ニ依リタルモハ  
 今述ヘタルカ如ク普通ノ證據方法ニ從ヒ自己ノ特有財産タル財産ヲ  
 證明セサルヘカラス然レハ法律ニ於テハ少クモ證據編第六十九條ニ  
 於テ新ニ一項ヲ設ケ婦若クハ入夫ノ相続人又ハ債權者ニハ爭ノ價

額ノ如何ニ拘ハラス人證ヲ以テ其權利ヲ行ハントスル財産ノ特有財  
 産タルコトヲ證スルヲ得セシメ隨テ事實ノ推定ニ依リ之ヲ證スルコ  
 トヲ得セシムヘキモノ、如シ  
 尙ホ終ニ一言スヘキハ現存スル物ノ特有財産タルコトヲ證明シテ權  
 利ヲ行フコトヲ得ルノミナラス特有財産ヲ成スモノ、定量物ナリシ  
 トキハ婚姻ノ儀式ノ時ニ於テ其成立シタルコトヲ證シテ其價額ノ辨  
 償ヲ請求スルヲ得ヘク又夫ノ管理ノ過失ニ因テ滅失シタル婦ノ特有  
 財産ニ付テハ其成立シタル事實ト夫ノ過失ニ因テ滅失シタル事實ト  
 ヲ證明シテ其價額ノ辨償ヲ請求スルヲ得ヘキコト、是ナリ

民法正義財産取得編卷之參 畢

財産取得編 第十五章 第二節 法定ノ制



40  
4

昭和38年  
第 1042 號  
7.29



W324.0/  
M147  
1(11)

最高裁判所図書館



000126017



